

小山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語 (3年)
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	国語表現 (京都書房)、「パスポート国語必携」 (桐原書店)、「Sメソッドによる伝え合う力のトレーニング」 (オリジナル教材)				
担当教員	茂木 謙之介				
到達目標					
1. 日本語に関する知識を持ち、それをを用いて適切に表現できる。 2. 文章の読み・書きを通して読解力と分析力を身につけることができる。 3. プレゼンテーションやディベートの形で自らの考えを論理的に表現することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語に関する知識を十分に持ち、それをを用いてとても適切に表現できる。		日本語に関する知識を持ち、それをを用いて適切に表現できる。		日本語に関する知識が不十分で、それをを用いて適切に表現することができない。
評価項目2	文章の読み・書きを通して読解力と分析力を十分に身につけることができる。		文章の読み・書きを通して読解力と分析力を身につけることができる。		文章の読み・書きを通して読解力と分析力を身につけることができない。
評価項目3	プレゼンテーションやディベートの形で十分に自らの考えを論理的に表現することができる。		プレゼンテーションやディベートの形で自らの考えを論理的に表現することができる。		プレゼンテーションやディベートの形で自らの考えを論理的に表現することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 ① 学習・教育到達度目標 ② 学習・教育到達度目標 ⑥					
教育方法等					
概要	日本語の運用能力を鍛えることを目的とした授業である。				
授業の進め方・方法	授業方法は、講義と演習を組み合わせで行う。				
注意点	講義のみならず、受講者による読む、書く、話す、聞く、調べる活動を多く取り入れ、それを評価するので、積極的な参加を求める。 前期中間試験と前期末試験の平均点を 35%程度、発表 (口頭および提出資料) を 35%程度、小テストと提出物を 30%程度で評価する。今年度において漢検準2級以上に合格した場合は、級に応じて加点する。読書体験記コンクールなど日本語表現に関するコンクールに入賞した場合も、内容に応じて加点する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス/自己紹介文	自己紹介文について、書き方を理解し書くことができる。	
		2週	日本語について① 言葉の歴史①	日本語の歴史について理解する。	
		3週	日本語について② 言葉の歴史②	日本語の歴史について理解する。	
		4週	伝え合う力のトレーニング① 意見文①	意見文について、書き方を理解し書くことができる。	
		5週	日本語について③ 文章の変遷	文章の変遷について理解する。	
		6週	伝え合う力のトレーニング② 意見文②	意見文について、書き方を理解し書くことができる。	
		7週	前期中間試験	これまでの範囲を理解する。	
		8週	試験答案の返却と解説	試験問題を理解する。	
	2ndQ	9週	日本語について④ 語彙	日本語の語彙について理解する。	
		10週	日本語について⑤ 文章の構造 / 確認テスト	文章の構造について理解する。	
		11週	伝え合う力のトレーニング③ 小論文①	小論文について、書き方を理解し書くことができる。	
		12週	日本語について⑥ 敬語	敬語について理解する。	
		13週	伝え合う力のトレーニング④ 小論文②	小論文について、書き方を理解し書くことができる。	
		14週	前期末試験	これまでの範囲を理解する。	
		15週	試験答案の返却と解説	試験問題を理解する。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	プレゼンテーション① 方法	プレゼンテーションの方法を理解する。	
		2週	プレゼンテーション② 準備①調査	調査の方法を理解する。	
		3週	プレゼンテーション③ 準備②論点整理	論点整理の方法を理解する。	
		4週	プレゼンテーション④ 発表①	プレゼンテーションができる。	
		5週	プレゼンテーション⑤ 発表②	プレゼンテーションができる。	
		6週	プレゼンテーション⑥ 発表③	プレゼンテーションができる。	
		7週	プレゼンテーション⑦総括/確認テスト	プレゼンテーションについて振り返り、理解を深める。	
	4thQ	8週	ディベート① 方法	ディベートの方法を理解する。	
		9週	ディベート② 準備①調査	調査の方法を理解する。	
		10週	ディベート③ 準備②論点整理	論点整理の方法を理解する。	
		11週	ディベート④ 準備③各班リハーサル	ディベートの方法を実践的に理解する。	
		12週	ディベート⑤ 発表①	ディベートができる。	

	13週	ディベート⑥ 発表②	ディベートができる。
	14週	ディベート⑦ 発表③/総括	ディベートができる。
	15週	提出物の返却と評価	一年間の学びを振り返り、理解を深める。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	
			代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	
			文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	
			鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
			読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
			現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	
			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
		社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	3 5	3 5	0	0	0	3 0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0